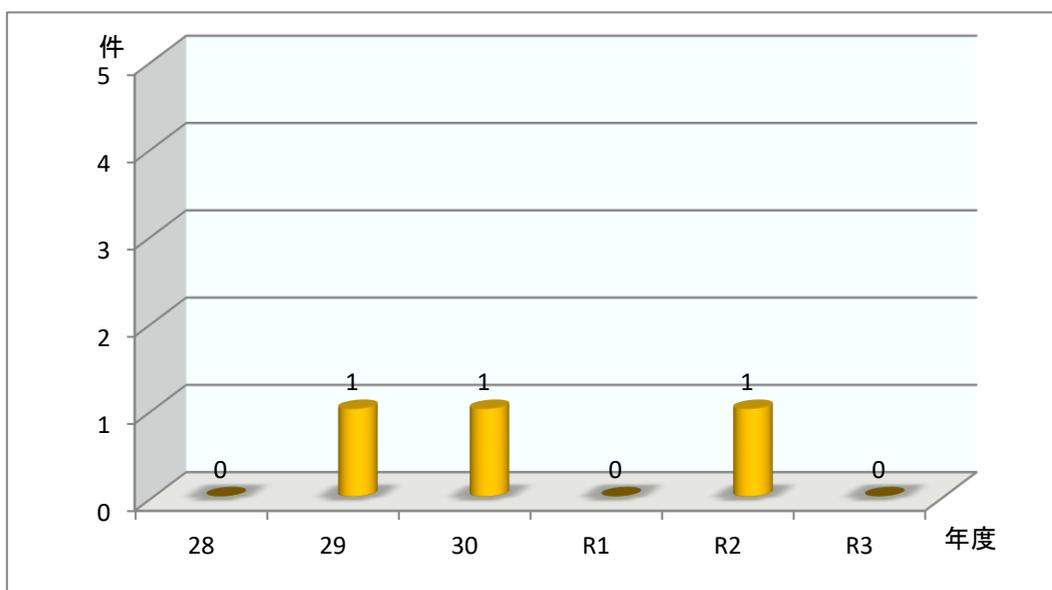


24 多剤耐性緑膿菌(MDRP)による院内感染症発生患者数

解説

多剤耐性緑膿菌(MDRP)は一般家庭でも見られる毒素の弱い菌ですが、抵抗力が低下した患者に感染すると、重症肺炎など重篤な感染症を引き起こし死亡する場合があります。院内感染症は適切な介入により、かなりの程度で発症頻度を減じることが可能です。安全で良質な医療を提供する環境として、十分な感染対策を行っている点を評価します。本指標は、MDRPの検査の取り組みに方よって数値が左右されるため、病院間の比較は困難です。

実績



自己点検評価

院内新規発生はありません。抗菌薬使用状況のモニタリング、抗菌薬適正使用支援チームによる介入を実施しており、令和3年度は新規発生なく経過しました。

定義

対象年度1年間の新規MDRP 発生患者数。
保菌者による持ち込み感染は除き、入院3日目以降に発生したものを計上します。

算式

実数